

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 13 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

もし、ジョン・レノンが突然生き返ったら？

イマジン。(想像してごらん。)

もし、ジョン・F・ケネディがいきなり登場したら？

国はどうするでしょう。

想像できますか？

偉大な指導者が、暗殺か何かによって殺されたのに突然蘇る。

彼らの立場になって想像してみてください。

きっと世界中が熱狂するに違いありません。

そして、竜を拝んだ。

獣に権威を与えたのが竜だからである。

また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。(黙示録 13:4)

ここで聖書を学ぶ皆さんに考えて欲しいのは、サタンの意図、願望は何かという事です。

それは、初めからずっと、自分が礼拝されることでした。

ここで、遂に人々は竜を拝み、獣をも拝んで礼拝します。

この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、(黙示録 13:5)

「反キリストは、呪いや誓いの言葉を言うのか？」

違います。

ここでは、誓いではなく冒瀆するのです。

つまり、自分が神だと宣言する。

四十二か月間活動する権威を与えられた。(黙示録 13:5)

42 か月は 3 年半。

日数にすると 1260 日。

一時と二時と半時の間。

これらの言葉が、預言の箇所、特に黙示録に何度も出て来ますが、これは大患難と呼ばれる患難時代の後半を表します。

そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。

すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。

彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。(黙示録 13:6-8)

多くの人が、7 節の「聖徒たちに戦いをいどんで」を見て、患難時代にも、教会は地上にいるはずだと言います。

反キリストが聖徒に対して戦いを挑むのは、我々のことだと。

その通り、これは私たち。

でも、私たちだけではありません。

この箇所を指して、教会が患難時代に残っているという人は、今も昔も存在します。

しかし、聖書で「聖徒」と呼ばれる人々は 3 種類あるのです。

旧約聖書の中には、イスラエルに関係する様々な場面で、聖徒という言葉が何度も出て来ます。

ですから、聖徒と呼ばれる 3 つのグループの一つはイスラエル。

二つ目が教会。

確かに私たちも聖徒と呼ばれます。

聖徒の意味は、「分けられた者」

三つ目は患難時代に救われた人たち。

これが教会だということはありません。

7 節に、「聖徒たちに戦いを挑んで」どうなると書いてありますか？

マタイ 16 章で、イエスは教会について、はっきりと言っています。

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。

ハデスの門もそれには打ち勝てません。(マタイ 16:18)

イエスは、「教会は打ち負かされない」と具体的にはっきり言っていますから、これは教会ではあり得ないのです。

ハデスの門もそれには打ち勝てません。(マタイ 16:18)

ですから、ここにいる聖徒たちは、疑いの余地なく、12 章で学んだ通り、反キリストが怒りを燃やした相手、患難時代のイスラエルの人々の事です。

さて、注目して下さい。

また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。(黙示録 13:7)

地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。(黙示録 13:8)

患難時代にも、救われ、小羊のいのちの書に名前が書かれている人が大勢います。彼らは竜を絶対に拝みません。

耳のある者は聞きなさい。(黙示録 13:9)

「みんな、よく聞きなさい!!!」とヨハネ牧師が言っています。

今、ヨハネが語りかけている人々もまた、その時代の獣であるローマ皇帝の「私を礼拝せよ」という命令に従わなかった人たちでした。

その人たちに、ヨハネは言っているのです。

とりこになるべき者は、とりこにされて行く。

剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。

ここに聖徒の忍耐と信仰がある。(黙示録 13:10)

また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。(黙示録 13:11)

イエスがヨハネ 14 章で何と言ったか覚えていますか。

わたしは父にお願いします。

そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。(ヨハネ 14:16)

「わたしが行くと、一人の助け主が送られる。」

それは、三位一体の第 3 位格、聖霊。

しかしここでは、もう一匹の獣。

これは、イエスにとっての聖霊のような存在で、偽預言者。

竜はサタン。

キリストの位置に反キリスト。

もう一匹の獣は偽預言者。

それがいよいよ 11 節で登場します。

また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。(黙示録 13:11)

反キリストがヨーロッパから出て、偽預言者は地から来る。

「地」は、旧約聖書の中では、一貫してイスラエルを表すので、偽預言者はイスラエルから出ます。

偽預言者は地から上って来て、

それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。(黙示録 13:11)

どうして角が 2 本で、しかも反キリストの時のような冠がないのでしょうか。

10 は領土の数で 10 か国。

2 は証しを示す数。

すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。(II コリント 13:1)

彼は小羊のような姿で現れます。

つまり、とても敬虔で、大変腰が低くて、非常に優しい。

聖霊は、平和の鳥としての鳩で象徴されていますね。

偽預言者も、一見聖なる者のような姿で登場します。

反キリストが政治的であるのに対して、偽預言者は、世界を統一宗教に導く宗教的リーダーで、反キリストの広告塔として働くのです。

この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。

また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。(黙示録 13:12)

最初の獣とは、暗殺された反キリスト。

すなわち、偽預言者の働きは、誰に焦点を当てること？ (反キリスト)

聖霊の働きは、人々の目を誰に向けますか？ (イエス・キリスト)

このように完全に重なるのです。

また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行った。

また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

(黙示録 13:13-14)

偽預言者は、世界を宗教的に一つにまとめる働きをします。

小羊のように、見た目は優しくて素晴らしい男のようですが、同時に天から火を降らせる力も持っており、それで人々は言います。

「これはすごい！」「この人は何かが違う。」

「彼が行ったしるしを見たか!？ ものすごいぞ！」

これは、私たちへの現実的な警告です。

とても優しくて霊的で、性質も小羊のような感じで、奇跡を行うと主張し、霊的に燃えているように見える人。

しかし、黙示録を書いているヨハネ牧師が、細心の注意を払うようにと言っているのは、サタンは光の御使いに見せかける力を持っていて、色々な奇跡を行い、不思議を見せることができる、ということ。

一見、霊的に燃えているように見えますが、実体は地獄からの欺き。

なぜなら、それは、イエス・キリストへ導かないから。

いつでも、誰かが来て何かを奨励し始めたら、それが流行りものや、人物や、神秘的なスローガンや、何らかの方法など、何であっても、皆さんは真逆の方向に走り出てください。

カナダのある場所や、韓国のある地で流行していること、パサディナでの興奮する新しいこと、こういったことから遠ざかるように。

なぜかと言うと、必ずニセモノが出現するから。

ニセモノは何かにとって代わる者。

ニセモノのキリストは反キリスト。

キリストに取って代わる者です。

あるクリスチャンが、

「この地域で、ある人物が、預言と称して、しるしや不思議や預言の名の下に、あらゆることをしている。複数の教会が引き裂かれ、人々が分断されている。」と教えてくれました。

また、あるクリスチャンたちは、愛を持って「気をつけて！」と言ってくれました。

私はそのことに大変感謝して、「ここにいる信徒たちに関しては、全く心配していない。」と答えたんです。

なぜなら皆さんは、目を向け、意識を向けるべきは、イエス・キリスト、そのお方だけだという事を、本当に真実に理解しているから。

私は、皆さんをととても誇りに思っています。

本当に。

火を降らせることや、奇跡を起こすことではなく、ただ唯一イエス・キリスト。

それ以上でも、それ以下でも、それ以外でもないのです。

ヨハネが書いた通り、今日、多くの反キリストが私たちの間に存在していて、いつも私たちの目を、イエスから逸らそうとします。

イスラエルについて語らず、イエスに導かず、イエスと共におらせず、何か別のものに向かわせるのです。

それが、この偽預言者がしていることです。

彼は獣の像を造らせますが、明らかにそれは、エルサレムに再建される神殿に置かれるでしょう。

それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。(黙示録 13:15)

また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。(黙示録 13:16)

また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。(黙示録 13:17)

目に見えないチップは、既にペットや家畜に埋め込まれていて、目には見えなくてもスキャンすることができます。

また、手や額にしるしをつけるというのは、大変実用的だと思います。

普通は、頭や手に服を着たりしないので、簡単に利用できるからです。

でも、他に考慮すべきことがあるのです。

シエマ (Shema) を知っていますか。

聞きなさい (シエマ)。イスラエル。

主は私たちの神。主はただひとりである。(申命記 6:4)

心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。(申命記 6:5)

今でもユダヤ人は、このシェマの聖句を身に着けています。

イスラエルやニューヨークに行くと、正統派ユダヤ人が、シェマの入った箱を手か額に着けているのを見かけます。

当時、ヨハネのこの手紙を受け取った人たちは気付いたでしょう。

「ちょっと待って！ちょっと待ってよ!!」

我々は、シェマの箱以外の物を手や額に着けたりしない!!!」

聞きなさい (シェマ)。イスラエル。

主は私たちの神。主はただひとりである。(申命記 6:4)

「我々は、ただ主だけを愛し、礼拝する！」

つまり、チップの埋め込みは、申命記 6 章を犯す行為なのです。

心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。(申命記 6:5)

これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。

(申命記 6:8)

主がイスラエルの人たちに言っているのは、「主はただひとり。それはわたしである。

わたしがあなたたちの中に在るように、常に、ただわたしだけを愛し、礼拝しなさい。」

これは、今日、正統派ユダヤ人がしているように、実際に箱に入れて身に着けなさい、ということではありません。

しかし、ここで反キリストである獣が、手か額に受けさせる刻印は、申命記 6 章を直接犯すことになるのです。

耳のある者は聞きなさい。(黙示録 13:9)

ヨハネは、当時の教会員に伝えています。

「全ては解決される。」

そして現在、同じように、聖霊があなたと私に語っています。

今夜ここで黙示録を学んでいる私たちが、どれほど恵まれているか分かりますか。

私たちは、最終的に、全てが本当に素晴らしくなるという事を知っています。

でも、世の中の大勢の人たちは、それを知らないために、心に重くのしかかる問題や、心を突き刺している痛みを忘れようとして、無機質な画面を眺め続けているのです。

私たちが今知っていることを知らないことが、どれほど惨めなこと分かりますか。

長年クリスチャンでいる人は忘れがちですが、ちょっと考えてみて下さい。

あなたは、救われたばかりのクリスチャンだとします。

今夜、初めて黙示録を学んだあなたは、「僕は天国に行くんだ！」

「全てはずっと、ずっと、ずっと、永遠に素晴らしくなる！」

「僕を苦しめているものは、自ら永遠に破滅して、全てがステキなことになる!!」

あなたが、初めてこの事を理解したならば、「やったー！」「わお！」「ほっほっほっほ〜!!」と言うでしょう。

「ジョン、主は、全てが素晴らしくなるって言っているの？永遠に？」

そうです。

ほんの少しの間、試練や試みや患難を通っても、それに打ち勝つ。

悩ますもの、苦しめるものはいずれ破滅し、縛られ、穴に放り込まれ、全ては大丈夫だということ。

いや、大丈夫どころじゃなくて、最高なのです。

だからヨハネは、ここに聖徒の忍耐と信仰がある。(黙示録 13:10) と言ったのです。

忍耐！

そうすれば、全てが完全に整っていきます。

それは、「どうにかなる」というような投げやりではなく、「主が来られる！」と知った上での忍耐です。

私たちは天国に行き、今私たちが苦しめている全ての問題は、全部消え去るのでありますから。

ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。

その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。(黙示録 13:18)

私はこう祈ります。

知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、

本当に重要なことを見分けられるように。

そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、

イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、

神の栄光と誉れとをたたえることができるように。(ペリピ 1:9 - 11) 新共同訳